特別賞

森と生き物

赤坂小学校　片山　瑞季

私は、今回森についての学習をして、北極の氷が地球温暖化により溶け、ホッキョクグマの生きる場所が減ってきていることについて、かわいそうだと思ったこともあり、森と生き物の関係について興味を持った。

森林の大きな木の根元や梢には、たくさんの昆虫や、それをえさとする鳥たちやその他の生き物が住みついている。また、さまざまな木の枝や葉は、動物だけでなく、植物が生きていくのに都合の良い湿り気のある空気を作っているため、とても快適である。つまり、森が豊かであればあるほど、生き物の種類・数は多くなるのである。気候などにより生態系のタイプが異なれば森のタイプも変わり、住む生き物も変わる。これを生物の多様性という。また、人工林にはこのような生き物たちは少ない。しかし、森林を伐採することで、急に太陽の強い光が差し込むため、その強い光や熱により、今まで住んでいた生き物たちが住めなくなってしまう。それで生物の多様性は失われ、この大きな変化が、再び森林となるまでには、とても長い時間を必要とするのである。

森林に住む生き物や植物たちが減らないようにするためには、森林の木々を伐採せず、森林を大事にし、生き物が住める場所を人間が作るべきであると思う。また、人工林には生き物たちはあまりいないから、なるべく自然に木が生えてくるようにするのも大切だと思う。すでに、減少している動物たちがいるのである。例えば、オランウータン、シベリアトラ、ライチョウ、ヘラジカ（ムース）、ヒグマ、カニクイザルなどが挙げられる。また、森の木は、根に雪解け水や雨水をため、きれいにし、川へと送り、飲み水を作っている。この働きから「緑のダム」と呼ばれている森がなくなると、生き物たちだけでなく、私たち人間まで生きていけなくなるのである。

私は、今まで生き物と森の関係について書いてきて、知ったことが三つある。一つは、生き物と森とは、深い関わりがあったのだということ。今まで生き物は生き物、森は森だと思っていた。しかし、生き物は森の土をいい土にし、森は生き物が住みやすい環境を作っていたことに、改めて感心した。二つ目に、人間の手によって破壊された森に、すでに減少してしまった生き物がいるということ。今までは動物の子孫がいなくなるため減っていたのだと思っていたが、本当は森林破壊によって減っていたのを、初めて知った。最後に、森や生き物を守るのは人間しかいないということ。木々を伐採するということは、森はもちろん、生き物たちに対する“いじめ”であると思う。人間が森を伐採し、森を傷つけなければ、森も生き物も安全なのだ。その

ために、私は公園などにドングリなどの木を植えたらいいと思う。もしかしたらそれが、森を救う第一歩になるかもしれないからだ。